



平成28年3月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

平成28年2月10日

上場取引所 東

上場会社名 株式会社 シーマ

コード番号 7638 URL <http://www.cima-ir.jp/>

代表者 (役職名) 代表取締役会長兼社長 (氏名) 白石 幸生

問合せ先責任者 (役職名) 取締役 経営企画本部長 (氏名) 松橋 英一

TEL 03-3567-8098

四半期報告書提出予定日 平成28年2月10日

配当支払開始予定日 —

四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無

四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 平成28年3月期第3四半期の連結業績(平成27年4月1日～平成27年12月31日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
28年3月期第3四半期	9,852	71.9	1,393	—	1,376	—	1,248	—
27年3月期第3四半期	5,730	0.8	△85	—	△197	—	△132	—

(注) 包括利益 28年3月期第3四半期 1,248百万円 (—%) 27年3月期第3四半期 △133百万円 (—%)

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円銭	円銭
28年3月期第3四半期	3.76	—
27年3月期第3四半期	△0.53	—

(注) 当社は平成26年9月3日付でライツ・オフリング(ノンコミットメント型/上場型新株予約権の無償割当て)にもとづく新株予約権の無償割当てを行い、当該新株予約権の払込が完了しております。ライツ・オフリングにもとづく払込金額は時価よりも低いため、前連結会計年度の期首に当該ライツ・オフリングにもとづく払込による株式分割相当分が行われたと仮定して、1株当たり四半期純利益金額を算定しております。

(2) 連結財政状態

	総資産		純資産		自己資本比率	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%
28年3月期第3四半期	9,847	—	5,841	—	59.3	—
27年3月期	8,351	—	4,592	—	55.0	—

(参考) 自己資本 28年3月期第3四半期 5,841百万円 27年3月期 4,592百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円銭	円銭	円銭	円銭	円銭
27年3月期	—	0.00	—	0.00	0.00
28年3月期	—	0.00	—	—	—
28年3月期(予想)	—	—	—	0.00	0.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 平成28年3月期の連結業績予想(平成27年4月1日～平成28年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円銭
通期	12,350	48.7	1,475	710.5	1,450	—	1,300	904.9	3.91

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 無
新規 — 社 (社名) 、 除外 — 社 (社名)

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)	28年3月期3Q	332,527,514 株	27年3月期	332,527,514 株
② 期末自己株式数	28年3月期3Q	108,472 株	27年3月期	106,692 株
③ 期中平均株式数(四半期累計)	28年3月期3Q	332,420,048 株	27年3月期3Q	251,509,188 株

※四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

この四半期決算短信は、金融商品取引法にもとづく四半期レビュー手続の対象外であります。この四半期決算短信の開示時点において、金融商品取引法にもとづく四半期報告書のレビュー手続は終了しております。

※業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績予想の見通しなどの将来に関する記述は、当社が現在入手している情報および合理的であると判断する一定の前提にもとづいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績などは様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件および業績予想のご利用にあたっての注意事項などについては、[添付資料]P3.「1. 当四半期決算に関する定性的情報(3)連結業績予想などの将来の予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. サマリー情報(注記事項)に関する事項	4
(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動	4
(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用	4
(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示	4
3. 四半期連結財務諸表	5
(1) 四半期連結貸借対照表	5
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	7
四半期連結損益計算書	
第3四半期連結累計期間	7
四半期連結包括利益計算書	
第3四半期連結累計期間	8
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	9
(継続企業の前提に関する注記)	9
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	9
(セグメント情報等)	9

1. 当四半期決算に関する定性的情報

文中の将来に関する事項は、当四半期連結会計期間の末日現在において当社グループが判断したものであります。

なお、第1四半期連結会計期間より、「連結財務諸表に関する会計基準」(企業会計基準第22号 平成25年9月13日)第39項に掲げられた定め等を適用し、「四半期純利益」を「親会社株主に帰属する四半期純利益」としております。

(1) 経営成績に関する説明

当第3四半期連結累計期間(平成27年4月1日～平成27年12月31日)におけるわが国経済は、中国をはじめとした新興国の景気減速の影響は懸念されるものの、国内においては企業収益や雇用・所得環境の改善を背景に、景気は緩やかな回復基調にあり、個人消費は総じて底堅い動きとなりました。

このような経済状況のもと、当第3四半期連結累計期間における、当社および当社の関係会社(以下「当社グループ」という)の業績は、特に主力のジュエリー・アート事業において、当第2四半期までの好調さを秋口からクリスマス時期という需要期も維持する形で、集客および受注の伸びが続きました。

エステ事業においても、売上高前年比2ケタ成長を継続中であり、またグループ全体での費用については、効率的な広告宣伝費の使用をはじめ抑制的使用が功を奏しました。

以上の結果、当第3四半期連結累計期間における業績は、売上高98億52百万円(前年同四半期比71.9%増)、営業利益13億93百万円(前年同四半期は、営業損失85百万円)、経常利益13億76百万円(前年同四半期は、経常損失1億97百万円)、親会社株主に帰属する四半期純利益12億48百万円(前年同四半期は、親会社株主に帰属する四半期純損失1億32百万円)となりました。

セグメントごとの状況は以下のとおりです。

当社グループは、前連結会計年度の第4四半期連結会計期間より事業セグメントの名称を従来の「ブライダル事業」から「ジュエリー・アート事業」に変更しております。

①ジュエリー・アート事業

当第3四半期連結累計期間における、ジュエリー・アート事業の売上高は75億49百万円、セグメント利益は11億77百万円となりました。当第2四半期までの好調さを継続し、集客数の増加に乗ずる成約率の向上により売上の拡大が続いております。月間売上高で開店以来の最高値を更新する店舗も出始めており、業績回復が確実なものになってきたと認識しております。今後も、社員教育や営業推進に注力し、体制の整備・チェックを怠ることのないよう取り組んでいきます。また、来期以降の更なる売上・シェア拡大に効果的な店舗の出店のためのリサーチを再開しており、まずはその第一弾として「銀座ダイヤモンドシライシ町田マルイ店」を今年3月に開設予定です。今後も収益性を念頭に置きながら、業績の向上に有効な販売促進策の調査・企画を進めてまいります。

②エステ事業

当第3四半期連結累計期間における、エステ事業の売上高は23億3百万円、セグメント利益は2億40百万円となりました。集客から成約そして施術までの一連の体制整備が進み、安定的に売上を上げることが出来る構造が整いつつあり、第3四半期においても業績が伸長しております。前期平成27年3月期の第4四半期では、同第3四半期までの累計利益を減少させる結果となりましたが、今季においては売上の底上げを図りながら、収益を落とさぬ様進めてまいります。なお、平成27年12月15日公表の通り、現地法人運営により香港および上海に海外店舗を出店しております。当社グループ全体でのサービス品質や技術レベルの向上から、新たな商品・サービスの開発まで、今後は国内だけにとどまらない事業規模の拡大を目指し取り組んでまいります。

(2) 財政状態に関する説明

(資産の部)

流動資産は、前連結会計年度末に比べ13億27百万円増加(前連結会計年度末比27.0%増)し、62億39百万円となりました。主な要因としては、現金及び預金の増加2億54百万円、受取手形及び売掛金の増加9億43百万円、商品及び製品の減少4億53百万円などによるものであります。

固定資産は、前連結会計年度末に比べ1億69百万円増加(同4.9%増)し、36億8百万円となりました。主な要因としては、有形固定資産の増加1億55百万円などによるものであります。

この結果、総資産は前連結会計年度末に比べ14億96百万円増加(同17.9%増)し、98億47百万円となりました。

(負債の部)

流動負債は、前連結会計年度末に比べ2億51百万円増加(前連結会計年度末比7.1%増)し、38億15百万円となりました。主な要因としては、支払手形及び買掛金の減少65百万円、未払金及び未払費用の減少90百万円、未払法人税等の増加2億20百万円、前受金の増加3億29百万円などによるものであります。

固定負債は、前連結会計年度末に比べ3百万円減少(同1.8%減)し、1億90百万円となりました。主な要因としては、退職給付に係る負債の減少3百万円などによるものであります。

この結果、負債合計は前連結会計年度に比べ2億48百万円増加(同6.6%増)し、40億6百万円となりました。

(純資産の部)

純資産は、前連結会計年度末に比べ12億48百万円増加(前連結会計年度末比27.2%増)し、58億41百万円となりました。主な要因としては、利益剰余金の増加12億48百万円によるものであります。

以上の結果、自己資本比率は59.3%(前連結会計年度末は55.0%)となりました。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

平成28年3月期通期連結業績予想につきましては、最近の業績動向を踏まえ、平成27年11月13日に公表いたしました業績予想を平成28年1月26日に修正しております。詳細につきましては、同日公表いたしました「通期連結業績予想の修正に関するお知らせ」をご参照ください。

なお業績予想につきましては、当社が現時点で入手可能な情報に基づいて判断したものであり、実際の業績は業況の変化や予期せぬ事象の発生などによって、大きく異なる結果となる可能性があります。

2. サマリー情報(注記事項)に関する事項

- (1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動
該当事項はありません。

- (2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用
該当事項はありません。

- (3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示
該当事項はありません。

3. 四半期連結財務諸表

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位:千円)

	前連結会計年度 (平成27年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成27年12月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	811,819	1,066,419
受取手形及び売掛金	1,372,245	2,316,113
商品及び製品	2,514,429	2,061,067
原材料及び貯蔵品	55,292	81,838
前払費用	125,399	119,058
短期貸付金	340	166,460
繰延税金資産	1,148	141,266
その他	31,669	288,160
貸倒引当金	△270	△827
流動資産合計	4,912,074	6,239,557
固定資産		
有形固定資産		
建物(純額)	536,378	714,969
車両運搬具(純額)	0	0
工具、器具及び備品(純額)	931,237	1,077,911
建設仮勘定	169,875	379
有形固定資産合計	1,637,491	1,793,260
無形固定資産		
ソフトウェア	20,036	19,208
電話加入権	4,932	4,932
のれん	408,304	392,464
その他	14,790	14,790
無形固定資産合計	448,064	431,397
投資その他の資産		
長期前払費用	18,102	11,943
長期貸付金	638	—
敷金及び保証金	1,073,254	1,049,782
繰延税金資産	—	9,042
その他	274,993	326,496
貸倒引当金	△13,521	△13,521
投資その他の資産合計	1,353,467	1,383,743
固定資産合計	3,439,023	3,608,401
資産合計	8,351,098	9,847,959

(単位:千円)

	前連結会計年度 (平成27年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成27年12月31日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	209,434	143,880
短期借入金	1,510,000	1,520,000
1年内償還予定の社債	50,000	—
1年内返済予定の長期借入金	300,000	60,000
未払金及び未払費用	587,021	496,802
未払法人税等	59,847	279,918
前受金	785,946	1,115,698
その他	62,015	199,562
流動負債合計	3,564,265	3,815,862
固定負債		
退職給付に係る負債	190,416	187,120
長期未払金	3,338	3,119
その他	500	500
固定負債合計	194,255	190,739
負債合計	3,758,520	4,006,602
純資産の部		
株主資本		
資本金	2,617,252	2,617,252
資本剰余金	2,376,152	2,376,152
利益剰余金	△392,438	856,248
自己株式	△1,979	△2,033
株主資本合計	4,598,986	5,847,619
その他の包括利益累計額		
為替換算調整勘定	△6,409	△6,263
その他の包括利益累計額合計	△6,409	△6,263
純資産合計	4,592,577	5,841,356
負債純資産合計	8,351,098	9,847,959

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書
 (四半期連結損益計算書)
 (第3四半期連結累計期間)

(単位:千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成26年4月1日 至平成26年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成27年4月1日 至平成27年12月31日)
売上高	5,730,582	9,852,503
売上原価	2,118,436	4,272,588
売上総利益	3,612,146	5,579,914
販売費及び一般管理費	3,698,059	4,186,473
営業利益又は営業損失(△)	△85,912	1,393,441
営業外収益		
受取利息	4,150	431
未払配当金除斥益	2,870	—
その他	2,504	1,546
営業外収益合計	9,524	1,978
営業外費用		
支払利息	16,174	14,007
社債利息	1,482	353
為替差損	2,423	4,632
株式交付費	100,573	—
その他	50	50
営業外費用合計	120,705	19,042
経常利益又は経常損失(△)	△197,093	1,376,376
特別利益		
固定資産売却益	468	—
受取和解金	168,555	—
特別利益合計	169,024	—
特別損失		
固定資産除却損	—	914
減損損失	42,002	4,145
特別損失合計	42,002	5,060
税金等調整前四半期純利益又は税金等調整前四半期純損失(△)	△70,071	1,371,315
法人税、住民税及び事業税	65,925	271,788
法人税等調整額	△3,386	△149,160
法人税等合計	62,538	122,628
四半期純利益又は四半期純損失(△)	△132,610	1,248,687
親会社株主に帰属する四半期純利益又は親会社株主に帰属する四半期純損失(△)	△132,610	1,248,687

(四半期連結包括利益計算書)
(第3四半期連結累計期間)

(単位:千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成26年4月1日 至平成26年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成27年4月1日 至平成27年12月31日)
四半期純利益又は四半期純損失(△)	△132,610	1,248,687
その他の包括利益		
為替換算調整勘定	△845	146
その他の包括利益合計	△845	146
四半期包括利益	△133,455	1,248,833
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	△133,455	1,248,833

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

前第3四半期連結累計期間(自平成26年4月1日至平成26年12月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント			調整額 (注) 1	四半期連結損益 計算書計上額 (注) 2
	ジュエリー・ アート事業	エステ事業	合計		
売上高					
外部顧客への売上高	4,668,689	1,061,892	5,730,582	—	5,730,582
セグメント間の内部売上高又は振替高	6	—	6	△6	—
計	4,668,696	1,061,892	5,730,589	△6	5,730,582
セグメント利益又は損失(△)	△148,167	80,792	△67,374	△18,538	△85,912

(注) 1. セグメント利益又は損失(△)の調整額18,538千円は、主に各報告セグメントに配分していない全社費用であります。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

2. セグメント利益又は損失(△)は、四半期連結損益計算書の営業損失と調整しております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

「ジュエリー・アート事業」セグメントにおいて、減損損失を計上しております。なお、当該減損損失の計上額は、当第3四半期連結累計期間においては、42,002千円であります。

(のれんの金額の重要な変動)

「エステ事業」セグメントにおいて、平成26年7月28日付で株式会社ニューアート・ラ・パルレの全株式を取得し、連結子会社といたしました。なお、当該事象によるのれんの増加額は、当第3四半期連結累計期間において422,383千円であります。

当第3四半期連結累計期間(自平成27年4月1日 至平成27年12月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント			調整額 (注) 1	四半期連結損益 計算書計上額 (注) 2
	ジュエリー・ アート事業	エステ事業	合計		
売上高					
外部顧客への売上高	7,548,969	2,303,534	9,852,503	—	9,852,503
セグメント間の内部売上高又は振替高	74	—	74	△74	—
計	7,549,043	2,303,534	9,852,577	△74	9,852,503
セグメント利益	1,177,716	240,266	1,417,983	△24,542	1,393,441

(注) 1. セグメント利益の調整額24,542千円は、主に各報告セグメントに配分していない全社費用であります。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

2. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整しております。

2. 報告セグメントの変更等に関する事項

当社グループは、前連結会計年度の第4四半期連結会計期間より事業セグメントの名称を従来の「ブライダル事業」から「ジュエリー・アート事業」に変更しております。

なお、前第3四半期連結累計期間のセグメント情報は、名称変更後の区分に基づき作成したものを開示しております。

3. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

「ジュエリー・アート事業」セグメントにおいて、減損損失を計上しております。なお、当該減損損失の計上額は、当第3四半期連結累計期間においては、4,145千円であります。

(のれんの金額の重要な変動)

該当事項はありません。